

(4) 麦の試験研究支援・講習会・栽培啓蒙 －北海道米麦改良協会－

北海道米麦改良協会が設立されたのは、昭和36年4月で、当時の名称は「北海道産米改良協会連合会」となっており、その名のとおり、水稲事業だけの組織として設立されました。

その後、昭和54年頃から小麦の作付けが急増（水田転作等）し、品質改善が強く求められるようになってきたことから、協会名を「北海道米麦改良協会」と変えて今日に至っています。

当協会の小麦関係の事業につきましては、大きく分けて四つあり、①試験研究支援、②各種講習会、③栽培啓蒙、④資料等印刷物の発行があります。

小麦の試験研究については、道立農業試験場が中心となって取り組んでいましたが、更なる品質改善の充実を図るため、試験研究の支援という立場で、当協会は昭和49年から「小麦の各種委託試験ほ」を設置しています。

主なものとしては、昭和50年代は、穂発芽によるアミロ粘度の低下に関する取組が中心で、「アミロ粘度低下遅延品種系統に関する調査」を実施しました。昭和56年に「チホクコムギ」が優良品種に決定し、昭和60年代に入ってから、作付けが「チホクコムギ」一辺倒となりました。また、作付地帯も適応地域以外に拡大されたため、試験内容についても「チホクコムギの良質小麦安定確収栽培試験」が主となりました。一方、「固有用途麦」の言葉が出はじめて、実需サイドより「春まき小麦」の供給を強く求められ（パン用、醤油用）、「ハルユタカの安定確収栽培試験」展示ほを設置しました。

平成の時代に入ってから、「タイセツコムギ」が、平成6年には「ホクシン」が優良品種となり、更なる「用途別品種」の作付けを意識しながら、めん適性「蛋白含量」を考慮した「大型実証栽培試験展示ほ」を主体とした、試験研究支援を実施してきました。

また、平成元年からは、道、道立農試の小麦関係者による「小麦地帯別栽培指針設定プロジェクト」チームを編成して、約3カ年の歳月をかけて、全道の主要市町村単位に、晩限は種期、地域環境と品質、根雪始と融雪期、成熟期の予測、主成分分析による地帯区分、収穫晩限、収量の安定度、安定確

収目標を示すとともに、越冬前の葉数と必要積算気温などを市町村毎に示した、「小麦地帯別栽培指針」“売れる高品質小麦の低コスト安定生産をめざして”を平成3年3月に作成し、関係行政・指導機関に配布いたしました。この「小麦地帯別栽培指針」の内容については、以後の「良質小麦安定生産技術講習会」においても、講習会テキストに要約、3カ年にわたって説明し、良質小麦の安定生産技術に活用していただくよう理解を求めました。

次に、「良質小麦安定生産技術講習会」の実施ですが、昭和52年から生産農家の麦作生産意欲・振興と安定技術習得・品質向上のため、水田転作地帯と畑作専業地帯に分け、毎年実施しています。詳しくは「良質小麦安定生産技術講習会」の項で述べておりますので避けますが、毎年春と収穫前の7月に、全道10数カ所で実施し、1500部のテキストと、専門技術員、農試の研究者に講師をお願いするとともに、昭和54年からは、流通事情を取り入れ、製粉会社の実需者としての小麦品質についての問題や、ホクレンの担当者による小麦を巡る諸情勢を取り入れた内容と、時勢の変化に対応したものになっています。

また、昭和54年～昭和57年には、需要の多い「春まき小麦」について、主要栽培地において2月に開催し、秋まき、春まきの年2度開催の時もありました。

栽培啓蒙については、今とあまり大きくは変わっていません。生育中の栽培技術のパンフレット、ポスター、チラシ等が中心で、昭和54年頃から作成配付されています。その年の必要な時期に応じた内容で、年2～3回の作成配付となっています。その中で特筆したいものは、「小麦の栽培ごよみ」で、栽培期間中と収穫時期までの一貫栽培体系を、写真やイラストで説明されており、分かりやすい表現となっています。

当時の苦勞話をしますと、全道一冊のものを作成していましたが、南から北までの広い範囲のため、地帯的に合わないとの苦情があり、次の年から地区協会別に作成配付したのもありました。現在は必要な時期に、重点事項を踏まえ、年2～3回の作成配付をしております（平成12年作成配付～「適期は種」の巻、「雪腐病防除」の巻、「適期収穫、適正乾燥」の巻等）。

資料等印刷物の発行については、その時々に必要な資料等があるとき、印

刷して発行していますが、月刊発行としては、「北海道米麦改良」があります。各月の技術対策や暖候期予報、3カ月予報等の気象予報、米・小麦に関する流通情報などを内容とし、農業者、農業団体、各関係行政機関等に9千部発行しています。

また、書籍としては「小麦病虫害防除手引」、「第7回国際穀物穂発芽シンポジウム協賛シリーズ [I]、[II]」、「小麦における穂発芽と穂発芽耐性」や、毎年講習会テキストを3千部発行しています。そのほか、著者、発行所の了解を得て、「北海道の麦作技術・良質麦の安定多収に向けて」(山川勉氏執筆)、「北農・新耕種法シリーズNo.5 麦類」(財団法人 北農会編、北海道共同組合通信社刊)をそれぞれ3千部増刷し発行しました。

最後に、諸先輩が協会に勤務された期間中に作成された、貴重な資料のパンフレット、ポスター、チラシ等を、どの様に保存するかを考えています。現在、啓蒙用のパンフレット、ポスター、チラシをCD-Rによるファイル保管をすることにいたしました。もし、今後何らかの機会に必要なことがあれば、お手伝いできるものと確信をしております。皆様にお見せすることができますので、その節はご遠慮なく連絡いただければと思っています。また、今後予算と時間が許されるならば、今までに作成した講習会資料や米麦会報についても、後世のためにCD-Rによる保存を考えているところです。

“進めよう 小麦の 品質向上”

＜菊池 岩夫＞



小麦関係者による作柄調査、チホクコムギ・うどんの普及